



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム version up

令和8年3月

目次

I. とうきょう すくわくプログラムについて……………	3
II. 連携自治体（実践協力園）の取組について…	18
III. すくわくナビゲーター園制度について……………	19
IV. すくわくポータルについて……………	22
V. 活動を振り返って……………	24

別冊1_事例集（令和5年度の実践事例）

別冊2_事例集（令和6年度の実践事例）

I.とうきょう すくわくプログラムについて

令和5年度の実践協力園の実践を踏まえ、**探究活動の工夫**や**子供の好奇心・探究心を高めるヒント**を、具体的な活動事例とともに、令和6年3月に「とうきょう すくわくプログラム」として取りまとめました。

「とうきょう すくわくプログラム」とはすべての乳幼児の「**伸びる・育つ(すくすく)**」と「**好奇心・探究心(わくわく)**」を応援する幼保共通のプログラムです。乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするため、**主体的・協働的な探究活動**を通じて**幼児教育・保育の充実**を図ることを目的としています。

プログラムでは、各園の環境や強みを活かしながら、「光」「音」「植物」など各園が設定するテーマに沿って、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践することで、乳幼児の成長・発達をサポートしていきます。

子供は、日々の遊びの中で、**無意識に「探究」を積み重ねながら成長**

プログラムの活用によって、単なる「遊び」にとどまらず、**ねらいや意図をもって「探究」を実践し、「探究」プロセス全体の質を向上**

好奇心を抱ききっかけを**増やす**

思考のループを**広げる**

思考のループを**深める**

生涯発達の土台形成

多様な他者との関わりの中で、主体的に「探究」のプロセスを積み重ねることで、意欲・自己肯定感・社会性等の**非認知能力**を培う

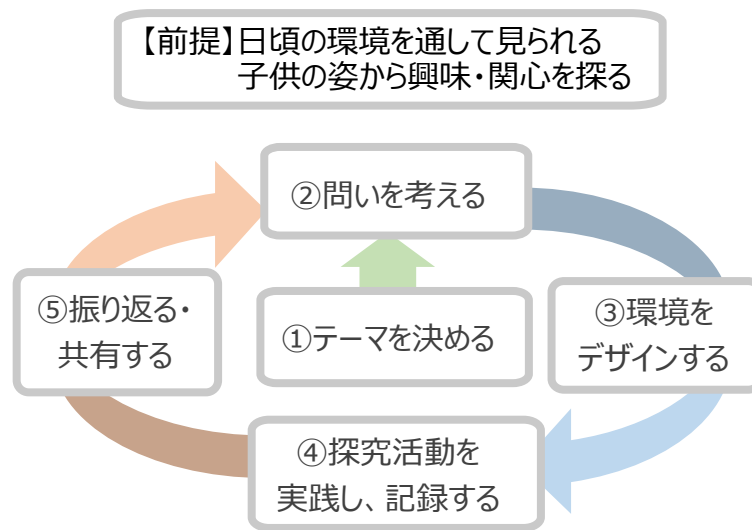
活動を通して何かができるようになる、といった結果や目的よりも、**子供たちが自ら興味を持ち、夢中になって遊び、発見する過程を積み重ねる**ことを重視しています。

活動内容はあらかじめ決まっているものではなく、子供たちの興味関心をもとに自由に作り上げていくものです。各園の環境や強み、すでに行っている活動などを活かしながら、探究活動に取り組んでみてください。

探究活動について

日頃の環境を通して見られる子供の姿から興味・関心を探り、その後、右図の①～⑤のプロセスを基本に探究活動を行います。

- ✓ 各園の環境や強みを活かしながら、子供の興味・関心に応じたテーマを設定し、テーマに応じた素材や道具を準備することで子供たちが遊び込める環境を整えます。
- ✓ 子供たちは、子供同士や保育者との関わりの中で、自ら興味をもって試し、考えながら「探究」を重ねていきます。
- ✓ 保育者は子供の問いに対し、単に答えを与えるのではなく、声かけ等の関わりによって一緒に「探究」を深めていきます。また、活動を振り返り、子供の好奇心・探究心を更に促せるよう、探究活動のデザイン・実践を繰り返します。



◆「探究活動」に対する園の先生方の声

- 決まった結果があるわけではなくて、ありのまま子供たちが感じて、子供たちの中で自然にどんどん疑問が増えていく。
- 一般的な知識などではなく、ありのままの目の前にあるものを子供たち自身が見て触って感じたものが、知識になるということが探究なのかなって感じた。
- 探究をする時は周りが見えなかったり、聞こえなかったりするほど集中して、答えを探っていき、わくわくして、気持ちが高まっていく。人にやらされるというよりは、自分からどんどんやりたいことをする。
- 自分でいろいろ見て触って、それを感じたままに、そのまま表現していく。普段の保育で得意・不得意があっても、探究は得意・不得意関係なく、誰もが可能性を秘めている活動。
- 何をやっても正解や不正解がない。絵を描く活動においても、みんながみんな全然違う絵を書いたり、違う色を作ったりと、みんなが違うものを作っている。日々の保育では型にはめるといふか、一つのことをみんなと一緒にやっているが、探究活動では子供たちのいろんな特徴や個性などを引き出せる。

探究活動の流れ

【前提】日頃の環境を通して見られる子供の姿から興味・関心を探る

子供が何を好きか、何に関心を持っているか、子供をよく見ます。

② 問いを考える

テーマについて子供がどのような考えやイメージを持っているかを知るために、子供への問いを考えてください。子供がどのように答えるか想像しながら、問いを準備します。

① テーマを決める

活動の前にテーマを定めます。子供の興味関心を深められそうなテーマを選んでください。

④ 探究活動を実践し、記録する

活動中、子供の言葉・表情・ジェスチャー等の多様な表現に耳を傾け、メモ・写真・映像等で記録します。

また、子供の好奇心・探究心を高められるよう声かけ等を行い、子供と一緒に活動を深めていきます。

③ 環境をデザインする

子供への問いをもとに、どのような環境であれば子供の興味関心を深められるかを考え、素材や道具を準備し、環境を整えます。

⑤ 振り返る・共有する

記録をもとに、子供が何に関心を持ち、何を発見し、どのような表現をしていたかを振り返ることにより、子供の世界について改めて理解を深めるとともに、子供の探究をさらに深めるための新たな問いや環境のデザインを考えます。

必要に応じて、園の内外の保育者や保護者と探究のプロセスを共有します。

活動の流れ：【前提】

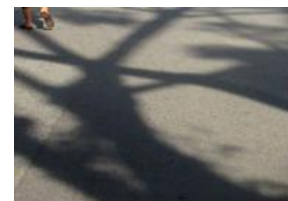
日頃の環境を通して見られる子供の姿から 興味・関心を探る

子供が何を好きか、何に関心を持っているか、子供をよく見ます。

【興味・関心を探る】

例)

- ✓ 自然光に気づく、影を不思議がる、水面をじっと見つめる、聞こえた音を当てようとする、虫や石を集める姿がある
- ✓ かるた遊び、段ボールや折り紙で制作する遊び、水たまり遊びを楽しむ姿がある
- ✓ 動物園遠足をきっかけに動物の生態に興味を持つ姿が見られる、果物狩りをきっかけに種や果物の種類に関心が広がっている



活動の流れ：①テーマを決める

日頃の子供の姿からつかんだ興味関心をもとに、活動の前にテーマを定めます。
子供の興味関心をさらに深められそうなテーマを選んでください。

【テーマ設定の例】

- ✓ 子供たちが普段から**興味を持っているもの**
例：自然、石、泥遊び
- ✓ 生活の中で**身近なもの、日常的に触れるもの**
例：音、光、色
- ✓ 園の**強みや環境**を生かしたもの
例：園の特色である活動（太鼓など）
園のシンボルとなっているもの（オリーブ、柿の木）
- ✓ 園の**日々の活動や行事**など
例：読み聞かせ（絵本）、定期的な活動（森歩き）
発表会の劇（じごくとてんごく）



活動の流れ：②問いを考える

テーマについて子供がどのような考えやイメージを持っているかを知るために、子供への問いを考えてください。子供がどのように答えるか想像しながら、問いを準備します。

- ✓ テーマに関して、**子供たちが知っていることや考えていることを聞き出すための問い**を準備します。決まった知識を子供たちに教えるのではなく、子供なりの考えや理由を聞きながら、言葉、絵、ジェスチャーによる子供たちの表現を拾っていくことを目指します。
- ✓ テーマについて、**子供がどう捉えているのかを一緒に考える**ことが探究につながります。また、子供たちがテーマについてどのように考え、どのように理解していくのかに着目することで、「**大人が子供を探究する**」活動にもなります。

【問いかけの例】

- ・ テーマについて、子供たちが持っている考えやイメージを引き出します。

<例>「○○ってなあに？」「○○って見たことある？」「○○って聞いたことある？」

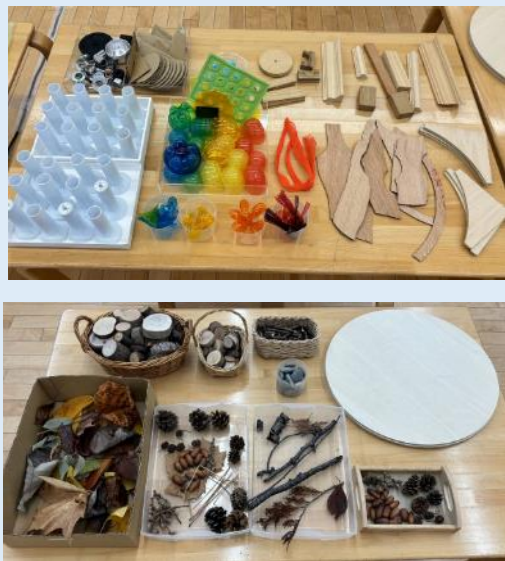
- ・ 活動を重ねるにつれ、さらにテーマを深められるよう、前回の活動をふまえた問いを、次の活動のねらいとして設定します。

<例>・「オリーブってなあに？」
⇒「オリーブの色と形をよく見てみよう」⇒「オリーブの木の下はどうなっている？」
・「音ってなあに？」
⇒「身体からどんな音がする？」⇒「心臓からはどんな音がする？」

活動の流れ：③環境をデザインする

子供への問いをもとに、どのような環境であれば子供の興味関心を深められるかを考え、素材や道具を準備し、環境を整えます。

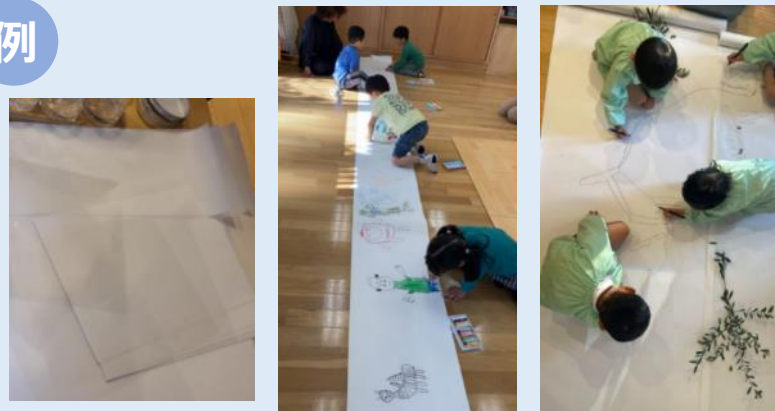
例



✓ 様々な素材

子供が選んだり比べたりできるよう、異なる色や形、性質を持つものを準備します。見る、触る、味わう、匂いを嗅ぐ、音を聴く、など諸感覚を使いながら子供が興味を持って素材について知り、子供の表現を広げられるようなものを選びます。

例



✓ 画用紙

普段から使っている決まったサイズや形だけでなく、子供たちの考えや表現に合わせて素材を選べる環境を整えることで、子供たちの想像力が引き出されます。

・大きさや形

四角だけでなく、丸い紙、長いロール紙、模造紙などを使うことで、みんなで協力して一つの作品を作る、それぞれが描いた絵が自然と繋がっていくなど、活動の幅が広がります。

・材質、色

様々な色の紙、光の透過性や材質が異なる紙を使うことで、発色の違いや絵の雰囲気の違いが生まれます。

活動の流れ：③環境をデザインする

例

✓ 様々な画材

- ・マジックペン、クレヨン、絵の具など子供が使いやすい道具を自由に選べるように準備します。
- ・三原色（赤・青・黄）のみの絵の具を使うことで、子供が自由に色を作り出すことができます。
- ・子供の表現を制限しないよう、絵の具などの素材を、ある程度自由に使える環境を整えることも重要です。



✓ 筆

本物の動物の毛で作られた筆（羊、馬、豚、たぬき、りすなど）を使うことで、子供たちが知っている動物をイメージしながら、筆と自分の関わりを感じ、道具がより身近に感じられるようになります。

✓ 透明の水入れ

筆を洗う水入れを透明なものにすることで、色の変化を見ることができます。水入れの中には偶然に色が変わっていくため、色の変化を知ったり、水入れにできた色からお気に入りの色を見つけるきっかけにもなります。

✓ みつろうクレヨン

ミツバチが作ったみつろうからできたクレヨンは、子供たちにとって身近なミツバチやはちみつとのつながりを感じられます。さらに、重ね塗りをする事で色が混ざるため、自由に色を作ることができます。

活動の流れ：③環境をデザインする

例



↑複数の種類の虫眼鏡



↑マイクروسコープとタブレットを使って葉の表面を拡大している様子

- ✓ 虫眼鏡
- ✓ マイクロスコープ

子供が見たいものに合わせ、道具を選べるように複数種類の道具を準備します。

例



- ✓ OHP（投影機）
- ✓ トレース台
- ✓ ライトテーブル

光を当てることで、いつもとは違った見方で物を見ることができます。

✓ 懐中電灯

興味を持ったものに光を当ててよく見てみたり、セロハンを貼って光の色を変え、色の重なりを楽しんだりすることもできます。

✓ プロジェクター

子供たちが描いた絵を投影することで、子供たちの想像の世界を全身で体感し、遊ぶことができます。また、光を利用して影遊びを楽しむことも可能です。

活動の流れ：④探究活動を実践し、記録する

テーマに関する問いと環境を準備し、探究活動を行います。子供の好奇心・探究心を高められるよう声かけ等を行い、子供と一緒に活動を深めていきます。

✓ 子供への声かけ

探究活動においては、正解や間違いはありません。子供たちがテーマについて向き合い考える過程そのものを重視し、子供たちが自ら探究し、安心して自分を表現できるような声かけをしていきます。

また、結果や成果物を求めるのではなく、テーマとする**素材そのものにじっくりと向き合ってみる**時間も大切です。

- ・子供たちの感覚について問いかける

<例>「どんな匂い?」「どんな形?」「触るとどんな感じがする?」「どんな音が聞こえる?」「どれが好き?」

- ・子供の姿を見守る

<例>

- ・園児Aが絵の具の活動の際、筆を洗う水の色が変わることに興味を持ち、水の色が変わることを楽しんでいました。そこで、好きなだけやらせてもらうことにしたところ、普段集中することが難しい子だったが、40分近く集中して楽しんでいました。これにより、色水遊びに満足し、絵の具は楽しいというイメージがついたからか、次の活動では、すんなりと絵を描く活動に集中していました。
- ・園児Bは普段から最初に周りの様子を見てから参加することが多いので、探究活動の際も本人の気持ちを待ったところ、しばらく他の子たちが楽しくやり始めているのを見たあと、自然と活動に混ざっていった。

<園の先生の声>

- ・子供たちに様々な体験をしてほしいとの思いから声をかけ、働きかけてしまうが、**見守り待つことの大切さを学んだ。**
- ・つい声かけをしたり、手助けをしてしまいがちだが、**あえて手を出さないことで子供たち自らがいろいろ考えていくことを実感した。**

活動の流れ：④探究活動を実践し、記録する

✓ グループに分けて活動する

クラスを複数のグループに分けて探究活動を行うことで、活動がさらに深まります。

<グループの分け方>

- 普段一緒に過ごしているグループで分ける
⇒自分の意見を言いやすく、相手の意見も聞きやすい
- 普段関わりの少ない子同士で組む
⇒活動をきっかけとして新たな関わりが生まれる
- 物事への関わり方が似ている子、違っている子を組み合わせる
⇒子供たちが安心して活動できたり、他の子供からの影響を受けて新たな自分に出会うことができる

<グループ分けに対する園の先生の言葉>

- 子供一人ひとりをよく見て、じっくりと関わることができる。
- 普段の日常では拾いきれないような子供一人ひとりの発言や気づき、アイデアを聴くことができる。
- 子供たちが友達の意見に影響されながら、自分の意見をアウトプットするなど、みんなの声がみんなに届き、お互いに考えることができる。

活動の流れ：④探究活動を実践し、記録する

✓ 活動を記録する

活動中、子供の言葉・表情・ジェスチャー等の多様な表現に耳を傾け、**メモ・写真・映像等で記録**します。

- ・ 子供たちは活動の中で**様々な疑問**を持ち、**子供たちなりの仮説**を立てながら考えを深めていきます。その過程を記録することで、子供たちの考えを知ることができます。

＜例＞・ 葉っぱは時間が経つとなぜ色が変わるのか？
⇒「お水がないから」「葉っぱはどんどん上から枯れていく」
・ 木の下（土の中）はどうなっているか？
⇒「地面の中にも枝がある」「地面の下に川がある」



- ・ 子供たちの姿や言葉をもとに、**次の活動へつなげていく**ことも重要です。

＜例＞・ ペンで絵を描く活動を行った際、色を混ぜたがる姿
⇒三原色の絵の具を混ぜて絵を描く活動を展開
・ 絵を部屋に投影して振り返った際、プロジェクターの光に興味を持っていた姿
⇒プロジェクターや懐中電灯を用いて、光と影で遊ぶ活動を展開
・ 色に対する「きれい」「あたたかい」という言葉
⇒子供たち一人ひとりが考える「きれい」な色、「あたたかい」色とはどんな色かを深めていく

活動の流れ：⑤振り返る・共有する

記録をもとに、子供が何に関心を持ち、何を発見し、どのような表現をしていたかを振り返ることにより、子供の世界について改めて理解を深めるとともに、子供の探究をさらに深めるための新たな問いや環境のデザインを考えます。必要に応じて、園の内外の保育者や保護者と探究のプロセスを共有します。

✓ 先生同士で振り返る

振り返りでは、**活動中には聞こえなかった子供の声や、見えなかった姿**を知ることができます。活動を振り返りながら、子供たちの姿を言葉にして分かち合う中で、「今回はこういうことができたんだ」「この子はこんな考えを持っていたんだ」といった発見をしながら、**次の活動のヒントを得る**ことができます。



✓ 子供たち同士で振り返る

- 見つけたものや作ったものなどを、子供たち自らがカメラなどで記録することで、**自分の探究活動を振り返る**ことができます。また、**子供たちが興味を持っているものや、好きなものなどを写真を通して知る**ことができます。
- 友達が見つけたものや作品を写真に記録したり、撮った写真を掲示して共有したりすることで、**新たな発見**につながります。



活動の流れ：⑤振り返る・共有する

✓ 子供たちの活動を保護者に共有する

- ・ 探究に取り組む子供たちの様子を、子供たちの写真や描いた絵を通して保護者に共有することで、子供たちが探究活動について保護者に説明するきっかけになります。
- ・ 保護者向けの展示会を開催したり、実際に子供たちが行った探究活動を体験できるコーナーを設置したりすることで、**親子が一緒に探究活動を深める機会**にもなります。

<観覧された保護者の感想>

- ・ 子供たちの想像力と生き生きとした様子が感じられた。
- ・ 子供たちが楽しそうなのがうれしかった。
- ・ 子供の自由な発想に驚かされた。



✓ 他園の先生と共有する

活動を他の園に共有することで、**それぞれの園における活動のためのアイデアや新たな気づきを得ることが**できます。また、先生にとって協働的な学びの場にもなります。

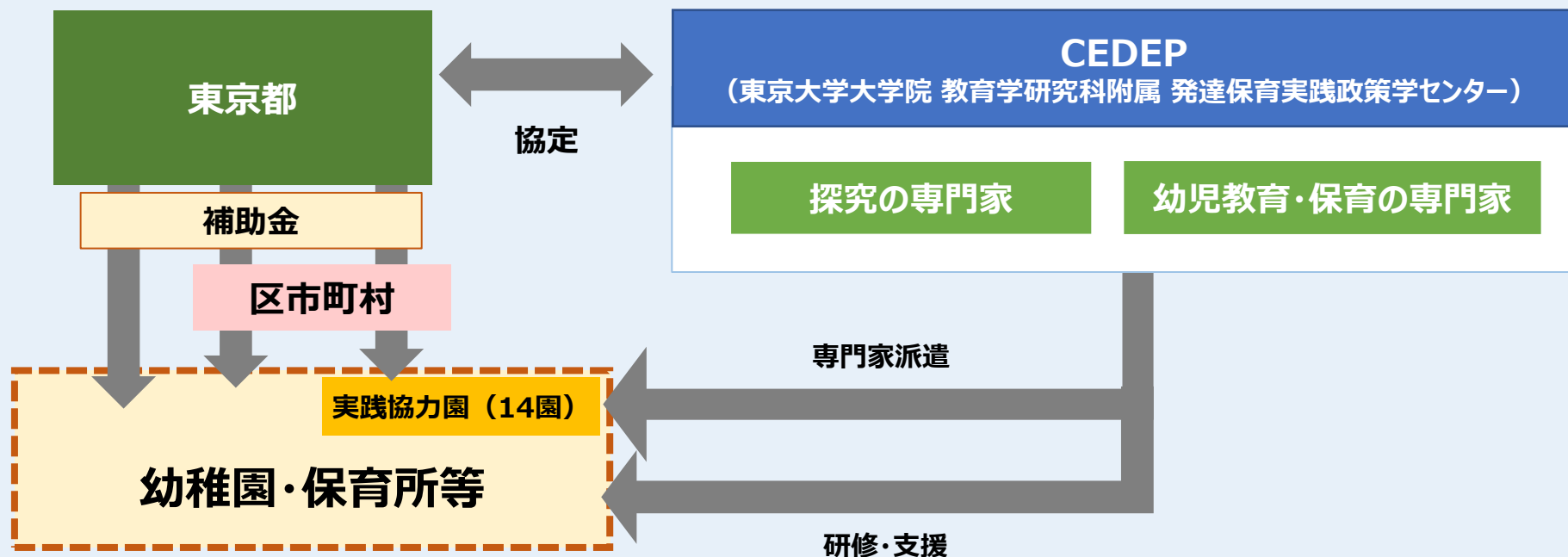
<他園の振り返りに参加した先生の感想>

- ・ 自分の中での振り返りになった。子供たちが何かに気づけるよう、**言葉かけを見直さなくては**いけないと思った。
- ・ 活動を**自分の園にも取り入れて**いきたい。保育者の気づきも大切ということを他の職員にも伝えたい。

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業について

本事業は、幼保共通の「とうきょう すくわくプログラム」に基づき、各園の環境や強みを活かしながら、各園が設定するテーマに沿って、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践する幼稚園・保育所等を支援することにより、幼児教育・保育の充実を図ることを目的としています。

体制イメージ図



Ⅱ.連携自治体（実践協力園）の取組について

幼保の垣根を越えた、地域内の実践研修会が行われています

江東区

「江東区とうきょう すくわくプログラム 探究実践共有会」を開催



○当日の流れ

- ・開会
- ・実践協力園3園の発表
- ・グループに分かれて意見交換
- ・実践協力園への質疑応答
- ・閉会

○参加状況

55施設
(オンライン25施設、現地30施設)

○当日の様子

・実践協力園の先生からは、すくわくプログラムの活動内容の発表と併せ、活動を通じた気づきや、活動時の工夫などの共有があった。

・グループに分かれての意見交換では、取組を進めている中での悩みの共有など、実践園同士での交流が行われていた。

福生市

「すくわく中間報告会」を開催



○当日の流れ

- ・開会
- ・グループディスカッション
- ・グループディスカッションの内容の共有
- ・専門家の講義
- ・閉会

○参加状況

15施設から35名が参加

○当日の様子

・グループディスカッションでは、3・4人ごと10グループ程度に分かれ、探究活動にあたって用意した素材や備品をどのように活用しているかなどについて話し合いが行われていた。

・専門家からは、実践協力園2園の取組事例を基に、探究活動にあたっての環境設定などについて講義が行われた。

Ⅲ.すくわくナビゲーター園制度について

- 探究活動に取り組む園同士が学び合うことで、取組の質を更に高めることを目的に、令和7年度から開始

すくわくナビゲーター園は、実施園同士の学び合いのネットワークの中核となる園

園同士のネットワークを創出



ナビゲーター園の活動内容

- ① **見学受け入れ**
探究活動を実施する際、他の実施園からの見学を受け入れる。
- ② **探究活動の紹介**
探究活動の様子を、すくわくポータル及び自園のホームページ等の両方で発信する。
- ③ **助言の提供**
探究活動に関する他の実施園からの質問等に応じ、適宜助言する。

ナビゲーター園向けのサポート

- ① 都と連携し園の探究活動に携わっている様々な専門家に、オンライン形式で相談できる。
- ② すくわくプログラムの取組の質の向上につながる、CEDEP主催の研修に参加できる。
- ③ 専用サイト「すくわくポータル」でナビゲーター園のすくわくプログラムの取組を発信する。



<https://www.sukuwaku.metro.tokyo.lg.jp/navigator/>

ナビゲーター園の活動をレポート！

2026.2



ナビゲーター園とは、どんな活動なのか…

お手本の活動？負担は？興味があるけれどよくわからない…

という先生方に、すでにナビゲーター園として活動している園の先生のお声をお届けいたします！

●A園●

応募したきっかけ

◆昨年度から**子供達の発達に良い**すくわく活動をと考え、**保育士主体**で取り組んできました。自園の実際の活動を、是非多くの園に見てもらい、**取組を伝えたい**と思い応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆1月に**4園**の先生の見学受入をしました。準備等の**負担は特に感じず**、これまで**やってきたことを更に高める良い機会**でした。当日は「光と影」のテーマで複数クラスで取組みました。

◆他の職員もすくわくに前向きで、シフトを見て見学日をきめました。

やってみて

◆取組を見て頂き、逆に**アイデア**をもらえて有難いし、お褒めの言葉等はとてうれしかったです。

◆質問をもらうと、**新しい発見や視点を得られ**、さらにすくわくへの意欲が湧きました。やってよかったです。

見学の様子



●B園●

応募したきっかけ

◆子供の日常の「探究」を支え豊かに、と考えてきましたが、その様子を見て頂き**ご意見をいただけること**と、**情報交換が学びにもなる**と考え、応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆子供のその時の興味関心によって、見学日の内容が変わることを**事前に伝えました**。

◆「植栽トンネルをもっと活用できないか？」と、どんな花が咲くかなど、**3園**の先生方が見学に来た日にコーナーを構成し、様々な年齢の子どもたちが取り組んでいるところを見てもらいました。

◆見学受入は月1回と決め、**可能な中で取り組んでいます**。

やってみて

◆一方的に伝えるのではなく、**活動や環境を見て頂いたうえで意見交換や悩みの共有**ができたことは**大きな学び**になり、**ありがたい機会**でした。

◆普段関わりの少ない、**幼保の園の先生同士で話し合えた**ことも素晴らしく、**やってよかったです**。

見学の様子



ナビゲーター園の活動をレポート！

2026.2



ナビゲーター園とは、どんな活動なのか…

お手本の活動？負担は？興味があるけれどよくわからない…

という先生方に、すでにナビゲーター園として活動している園の先生のお声をお届けいたします！

●C園●

応募したきっかけ

◆手探りですくわくプログラムに取り組み始めましたが、同じように迷いながら進んでいる園がいたら、一緒に考えるお手伝いができるといいなと思い、応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆1月に、計3園5名の先生の見学受入をしました。4歳児の「虫」をテーマにした活動の日はナビゲーター園としての見学受入が初めてだったので、担任のほか副主任が入り、体制を工夫しましたが、特に苦労はなかったです。

◆見学日については、月案、週案と作成する中で、職員で相談して決めました。

やってみて

◆見学に来る方がいると学びになるし、能動的に見に行くこともできるのは、メリットだと思います。

◆他園の先生から、質問を受けたり振り返りをしたことはとても良い機会になりました。

見学の様子



●D園●

応募したきっかけ

◆昨年度からプログラムに取り組む中で、子供達が成長する姿を実感したので、ナビゲーター園となって、すくわく活動により一層深く取り組みたいと思い、応募しました。

どんなことを行いましたか？

◆1月に、1園1名の先生の見学受入をしました。当日は、継続して取り組んできている4歳児の「光」をテーマにした室内の活動でした。

◆他園からの見学は初めてでしたが、都が日程調整等サポートしてくれたため、特に負担は感じず、事前に直接お電話を頂いていたので、当日はスムーズに迎えられました。

やってみて

◆他園の先生も、みんな試行錯誤の中取り組まれていることがよくわかりました。

◆正解かわからない中、一緒に頑張っている仲間が都内にたくさんいるということがわかったのは、励みになりました！

見学の様子



IV.すくわくポータルについて

すくわくポータルは、保護者や幼稚園・保育所等に具体的な活動内容や、実施園の状況等を発信・共有するポータルサイトです。

※園の先生向けの関係者ページは、ログインが必要となります。

東京都の各所管局又は区市町村から園宛にお伝えしているIDとパスワードでログインしてください。



すくわく



で検索!!



ログインせずにご覧いただけるコンテンツ・機能

● 動画

- ・プログラムの意義についての対談
- ・探究活動の流れの解説
- ・活動の様子（色・音・自然）



● 事例紹介資料

- 新 丸わかりブック
- 新 実施園の先生対談
- 新 ナビゲーター園の取組・すくわくプログラム



● 実践園検索

- ・所在地から
- ・施設の種類から（幼稚園や保育所など）
- ・テーマから（色、自然、音など）

● ロゴのダウンロード

- ・無料でダウンロード
- ・取組PRへ活用

園の先生向け（要ログイン）

● 実践に関する情報

- 新 ナビゲーター園見学情報等
- ・探究活動のヒント集
- ・研修会等動画
- ・PRチラシ（園の取組自由記載バージョン）

● 各種お知らせ

- ・研修会や報告会等、東京都からのお知らせ

● チャットボット

- ・頻度の高い質問に対応
- ・すくわくポータル内の回答掲載箇所にアクセス

● 補助金制度案内

- ・事業概要や補助要件、問い合わせ先など

※園の先生向けページは、幼稚園・保育所等を対象とした限定公開です。第三者への共有等はお控えください。

V.活動を振り返って

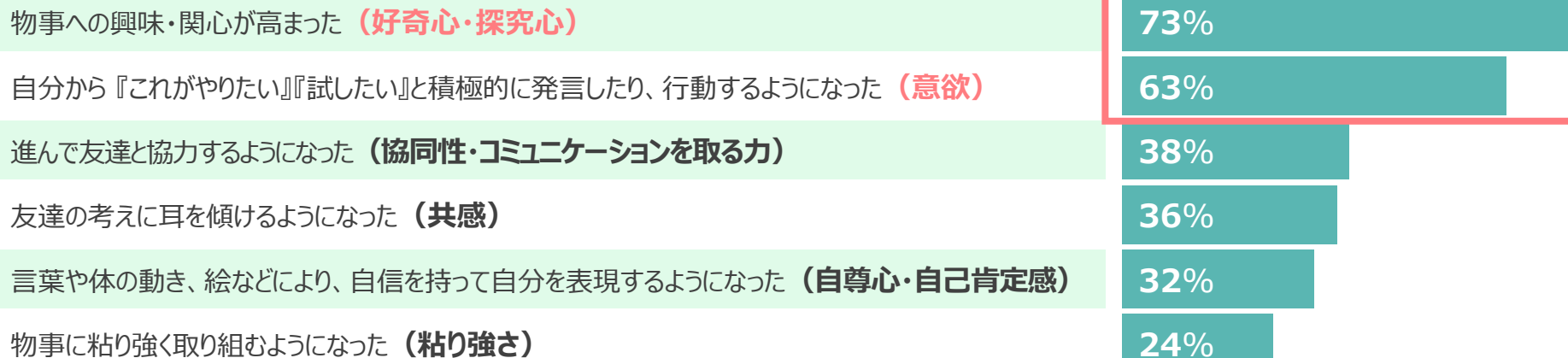
子供の変化や園の先生自身の変化を分析・検証するためアンケートを実施し、回答結果をまとめました。
(対象：2024年度実施園の先生)

※集計にあたっては、小数点以下を四捨五入しているため、合計等に一致しない場合がある。

子供の変化

園の先生から見て、「すくわくプログラム」の取組により、子供の好奇心・探究心や意欲が高まっている姿があった

探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか ※複数回答 対象：園の先生 (n=1,586)



CEDEPのコメント

- ✓「物事への興味・関心が高まった」が最も高く、次いで「自分から『これがやりたい』『試したい』と積極的に発言したり、行動するようになった」であった。探究活動の経験を重ねたことが、日常の幼児教育・保育の中での子供の姿の変化につながることで実感されており、特に、好奇心や主体性といった側面を伸ばす可能性が示された。
- ✓これらの側面は、子供の物事への興味・関心を深め、問いやねらいがありながらも決まったゴールを定めずに子供自身の考えに耳を傾ける「探究活動」がめざすところと関連が深い非認知能力の側面である。この結果は、園での探究活動が、その目的についての一定の理解をもって実践されており、子供の育ちにつながっていることが、子供の日常の姿において実感されていることを示すものである。
- ✓また、「進んで友達と協力するようになった」、「友達の考えに耳を傾けるようになった」は4割近くに達しており、探究活動が協同性や他者の考えへの関心にもつながっている場合もあることが示唆される。このことは、保育者や友達と共に行う活動であることにより、個々の子供の好奇心や主体性を育むのみならず、協働して探究することの学びや育ちにもつながっている可能性を示唆している。

子供の変化

探究活動が好奇心や主体性を育む可能性がある。また、年齢により友達とのかかわりに違いが見られた。

探究活動×子供の年齢

「探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか」の設問について、探究活動を実施した子供の年齢別で回答を集計

探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか ※複数回答

	自分から『これがやりたい』『試したい』と積極的に発言したり、行動するようになった	友達の考えに耳を傾けるようになった	物事への興味・関心が高まった	言葉や体の動き、絵などにより、自信を持って自分を表現するようになった	物事に粘り強く取り組むようになった	進んで友達と協力するようになった
3歳未満児のみで行っている (n=180)	52%	14%	79%	21%	15%	16%
3歳以上児のみで行っている (n=852)	68%	42%	76%	35%	28%	41%
3歳未満児・3歳以上児両方で行っている (n=480)	68%	39%	76%	34%	26%	45%

CEDEPのコメント

約25ポイント差

約29ポイント差

- ✓年齢別グループでみると、いずれのグループにおいても、「物事への興味・関心が高まった」の割合が最も高く、75%を超えていた。次いで、いずれのグループにおいても「自分から『これがやりたい』『試したい』と積極的に発言したり、行動するようになった」の割合が高く、「3歳以上児のみ」「3歳未満児・3歳以上児両方」では65%を超えており、「3歳未満児のみ」でも50%を超えていた。
- ✓いずれの年齢においても、探究活動が物事への興味・関心を引き出し、「やってみたい」という意欲を伸ばすこと、すなわち好奇心や主体性を育む可能性が示唆された。
- ✓一方、年齢による違いが顕著にみられたのは、「友達の考えに耳を傾けるようになった」「進んで友達と協力するようになった」であり、「3歳未満児のみ」の場合は10%大であったが、「3歳以上児のみ」「3歳未満児・3歳以上児両方」では4割前後に達していた。
- ✓3歳以上児の場合には、特に、友達とのかかわりにもあらわれてくることがうかがわれる。

子供の変化

物事への興味関心を高めることにおいて、少人数で探究活動を行うことが有効である可能性がある。

探究活動×実施グループの人数

「探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか」の設問について、探究活動を実施する際の1グループあたりの平均人数別で回答を集計

探究活動を重ねた子供に、日常の幼児教育・保育の中で以下の変化はあったと感じたか ※複数回答

	自分から『これがやりたい』『試したい』と積極的に発言したり、行動するようになった	友達の考えに耳を傾けるようになった	物事への興味・関心が高まった	言葉や体の動き、絵などにより、自信を持って自分を表現するようになった	物事に粘り強く取り組むようになった	進んで友達と協力するようになった
2-4人 (n=53)	62%	26%	89%	25%	21%	27%
5-8人 (n=150)	63%	37%	81%	27%	19%	35%
9-12人 (n=50)	70%	42%	84%	36%	28%	46%
13以上 (n=54)	67%	39%	72%	37%	39%	48%

17ポイント差

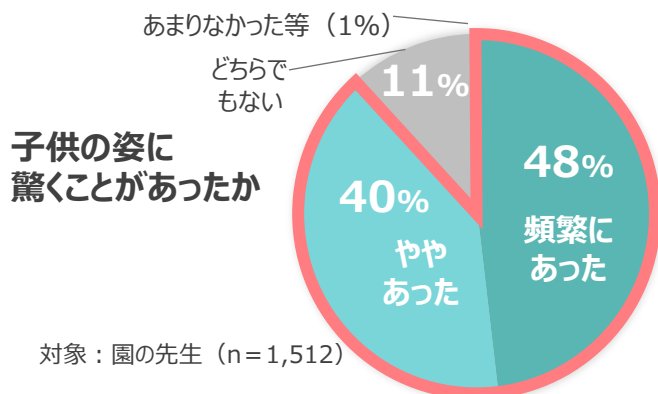
CEDEPのコメント

✓人数別でみると、いずれの人数においても、「物事への興味・関心が高まった」の割合が最も高かったが、「13人以上」と「2-4人」では、17ポイントの差があり、「2-4人」の方が、割合が高かった。

✓特に物事への興味・関心を高め、好奇心を引き出すことにおいては、少人数で行うことが有効である可能性が考えられる。

子供の変化

約9割の園の先生が、「すくわくプログラム」の取組の中で、子供の姿に驚くことがあった。



CEDEPのコメント

- ✓探究活動をやってみて、子供の姿に驚くことがあったかという質問に対して、驚くことがあったという回答は合計で9割近くに上っていた。
- ✓「驚く」ということは、これまでの実践ではあまり出会ったことのない姿に出会ったということであり、探究活動において子供たちが新たな姿を見せると共に、保育者の新たな発見や気づきにもつながっていることが示唆される。

エピソード（自由記述）：活動中の子供の姿への驚き

<子供の情緒的側面> 「子供の意欲、夢中さ、根気強さなど子供が活動の中で示す情緒的側面に驚きを感じた」というもの

(内容)	(自由記述例)
子供の意欲	あまり意欲的に活動してこなかった幼児が自らやりたいと活動に参加していたことです。
子供の夢中さ	ライトペインティングをした際、おしゃべりするの忘れるほど夢中になって取り組んでいる姿。
子供の根気強さ	楽器をやりたいと思った子供は、難しい課題でも諦めず挑戦する姿があった。

<子供の表現> 「活動中での子供の表現に驚いた」という内容

子供の言葉の豊かさ	活動中の子供の発言が豊かになった。
子供の色の表現	色の探究活動の際、赤と白を混ぜるとピンクになったのを見て赤がなくなると表現していた。
他児への考えの伝達	発表の際に前に出た子の真似をして終わるかと思ってしまっていたが、子供によってそれぞれ少しずつ見本として見せたテンプレートから違っていき姿が見られたので、子供達なりに考えて一生懸命に伝えようとする姿がみられたこと。

→→→次頁へ続く

子供の変化

エピソード（自由記述）：活動中の子供の姿への驚き

<子供のアイデア>「活動の中で子供が示すアイデアに驚いた」という内容

(内容)	(自由記述例)
子供の発想	子供の発想の豊かさ（大人には思いつかない）、一人ひとりの子のちがった一面の発見。
子供の発見	今までの食育活動では、食材の感触やにおい気づく事があったが、探究する中で茎から出てくる液体や葉についている粉のような物等、こまかな部分にも気づく事ができていた。今までよりも、より深く楽しい食育活動となったこと。
子供の工夫	自分なりの表現に注目することができ、子供をより知ることが出来た。また、繰り返し活動することで植物から色を作る時の工夫や慣れがあることがわかった。
子供の興味の可能性	0歳児で初めての鏡の世界を知り、興味深く覗いたり、人が映る様子を見て子供の世界が広がっていく姿を見れて子供の興味の可能性に触れることができた。
子供の興味の広がり	運動というテーマを設定していたが、子供たちの興味や関心は運動機能や運動能力の向上という部分ではなく、「ものの性質」や「測る」という部分へと広がっていった。
子供同士の発見の共有	4歳児のひとりが、ボールを製作する際に円柱に風船を付ける自由な発想と、転がり方を他のボールと比較して他児と共に観察し、違いを発見したこと。
子供の考えの広がり	節水の為に「ペットボトル水道」を製作した際、「戸外で使用できそう・災害時に役に立ちそう」と様々な環境での使用方法について考えを巡らせることができたこと。

子供の変化

エピソード（自由記述）：子供の活動の拡張・発展への驚き

<日常生活とのつながり> 活動が日常生活とつながっていることへの驚き

(内容)	(自由記述例)
日常生活での興味の継続	探究活動後も、散歩時や日常の保育の中で探究活動で行った事を思い出し、自然と自ら耳を傾けたり感じたりする姿を見る事があった。
日常生活での自信	意外な園児が逆上がりやなわとびがあつという間にできたり、どの子も自信がついたように感じる。保育園の行き渋りがなくなった。

<子供同士のつながり> 活動が子供同士のかかわりの中で発展したことに驚きを感じたという内容

子供同士のかかわりの中での発展	自分達で考えた遊びを、他児と一緒に発展しながら楽しむ姿が見られるようになった。
学年を超えた広がり	5歳児が取り組んだ事がいつのまにか3歳児にも広がっていたり、時に一緒に取り組んでいたりとお互いに良い刺激になっていました。

<家庭・地域とのつながり> 家庭での会話につながった、地域の人とのかかわりが増えたといった内容

家庭とのつながり	子供同士での話し合いが増え保育者が入らなくても調べたり、考えたりしている姿が見られた。また家でも話をしているようで、家にある図鑑などを持ってくるようになった。
地域の人とのかかわり	幼稚園を訪ねて来る人との関わりが増えた。

CEDEPのコメント

- ✓保育者が驚きを感じたとして挙げられた自由記述の内容から、探究活動の中で、子供たちがそれまでとは異なる意欲的で夢中な姿や、様々なアイデアや表現を豊かに示しており、保育者もそれに気づけたということが示唆された。
- ✓さらに、探究活動が、その場限りのことではなく、日常生活にもよい影響を与えたり、園内で学年を超えて波及したり、家庭や地域とのつながりを豊かにする場合もあることが示された。

子供の変化

探究活動の中で、園の先生が驚くような子供の姿があらわれるのは、子供の年齢や取組の実施人数にかかわらず。

探究活動×子供の年齢

「子供の姿に驚くことがあったか」の設問について、探究活動を実施している子供の年齢別で回答を集計

子供の姿に驚くことがあったか

	頻繁 にあった	やや あった	どちらとも 言えない	あまり なかった	全く なかった
3歳未満児のみで 行っている (n=180)	45%	42%	12%	1%	1%
	87%				
3歳以上児のみで 行っている (n=852)	48%	40%	11%	1%未満	1%未満
	88%				
3歳未満児・ 3歳以上児両方 で行っている (n=480)	49%	40%	11%	1%未満	1%未満
	89%				

CEDEPのコメント

- ✓いずれの年齢別グループにおいても、「頻繁にあった」「ややあった」の割合を合わせて85%を超えていた。
- ✓いずれの年齢においても、探究活動において、保育者が驚くようないつもと異なる姿があらわれていたことが示唆される。

探究活動×実施グループの人数

「子供の姿に驚くことがあったか」の設問について、探究活動を実施する際の1グループあたりの平均人数別で回答を集計

子供の姿に驚くことがあったか

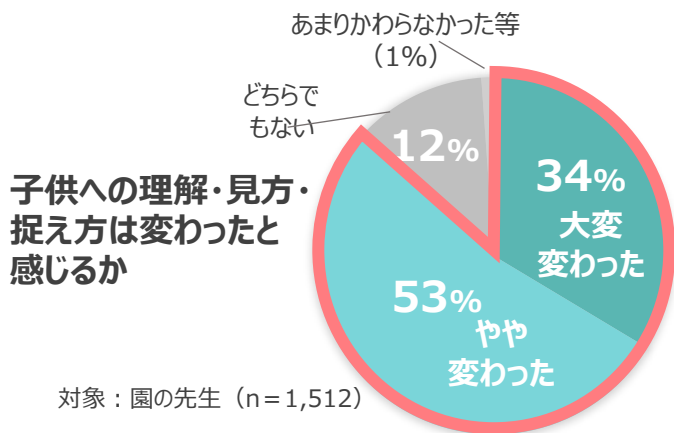
	頻繁 にあった	やや あった	どちらとも 言えない	あまり なかった	全く なかった
2-4人 (n=53)	51%	40%	9%	—	—
5-8人 (n=150)	50%	40%	10%	—	—
	10ポイント以上の差				
9-12人 (n=50)	34%	44%	22%	—	—
13以上 (n=54)	46%	39%	13%	—	2%

CEDEPのコメント

- ✓「2-4人」の場合と「5-8人」の場合で「頻繁にあった」の割合が最も高く、かつ「ややあった」との差が10ポイント以上であった。
- ✓「9-12人」では、「ややあった」の方が割合が高かった。

園の先生の変化

約9割の園の先生が、日常の子供の行動や考えに、これまで以上に意識を向けるようになった。



CEDEPのコメント

- ✓「大変変わった」、「やや変わった」の合計が9割近くに上っていた。
- ✓保育者がこれまでの実践ではあまり出会ったことのない子供の姿に出会い、新たな発見や気づきを得たことが、子供への新たな理解・見方・捉え方につながった可能性が示唆される。

どのように変わったか ※複数回答

対象：保育者 (n=1,316)

子供の発言や行動に意識が向くようになった

77%

子供が何を考えているか知ろうとするようになった

64%

子供が持つありのままの力や可能性に、より目が向くようになった

60%

子供との活動時間を楽しめるようになった

47%

子供一人ひとりのことをより知りたいと思うようになった

46%

CEDEPのコメント

- ✓「子供の発言や行動に意識が向くようになった」の割合が最も高く、次いで、「子供が何を考えているか知ろうとするようになった」、「子供の持つありのままの力や可能性に、より目が向くようになった」が高い割合だった。
- ✓探究活動においては、子供の声に耳を傾け、子供の考えを広げ深めることを大事にしている。保育者が子供の発言や行動に意識を向け、子供の考えや、子供の持つ力や可能性に目を向けるようになったということは、事業の目的や内容の理解をもって探究活動が進められていることを示す結果だと考えられる。
- ✓保育者が子供の発言や行動、考えや可能性に目を向けるということは、子供の興味や好奇心を受けとめ、子供がもつ可能性を引き出したりすることに寄与するものと考えられる。そして、そのことは、非認知能力の育ちを支えるかかわりにつながる可能性があるだろう。

園の先生の変化

探究活動を通して、3歳未満児の子供に対しても、園の先生の子供への理解・見方・捉え方に変化があった。

探究活動×子供の年齢

「子供への理解・見方・捉え方は変わったと感じるか」の設問について、探究活動を実施している子供の年齢別で回答を集計

子供への理解・見方・捉え方は変わったと感じるか

	大変変わった	やや変わった	どちらでもない	あまり変わらなかった	全く変わらなかった
3歳未満児のみで行っている (n=180)	42%	48%	8%	2%	—
3歳以上児のみで行っている (n=852)	31%	54%	13%	1%	1%未満
3歳未満児・3歳以上児両方で行っている (n=480)	35%	54%	10%	1%未満	1%未満

10ポイント以上の差

CEDEPのコメント

- ✓特に、「3歳未満児のみ」の場合は、「大変変わった」の割合が4割を超えており、「3歳以上児のみ」の場合と比べて10ポイント以上高かった。
- ✓「探究」には3歳以上になって初めて可能になるといった一般的なイメージもあると考えられる。3歳未満という小さな年齢においても、物事への興味・関心や集中を示す事例も報告されており、探究活動を通して、3歳未満の子供も探究する存在としてみるようになる可能性が考えられる。

探究活動×実施グループの人数

「子供への理解・見方・捉え方は変わったと感じるか」の設問について、探究活動を実施する際の1グループあたりの平均人数別で回答を集計

子供への理解・見方・捉え方は変わったと感じるか

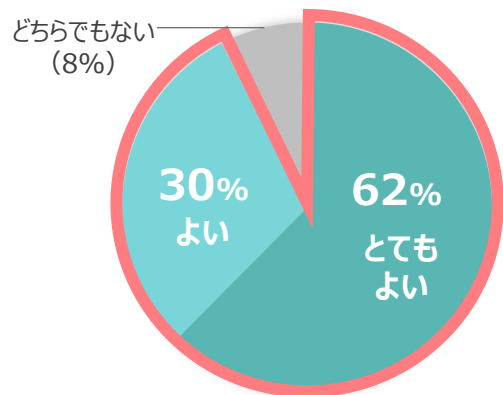
	大変変わった	やや変わった	どちらでもない	あまり変わらなかった	全く変わらなかった
2-4人 (n=53)	36%	59%	6%	—	—
5-8人 (n=150)	33%	58%	7%	2%	—
9-12人 (n=50)	26%	54%	20%	—	—
13以上 (n=54)	33%	56%	9%	2%	—

CEDEPのコメント

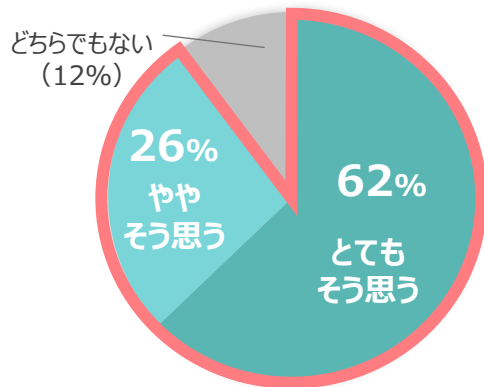
- ✓子供への理解・見方・捉え方が変わったかという質問に対しては、グループの人数による顕著な違いは見られなかった。

多くの保護者が、「すくわくプログラム」の取組を実施することに好意的である。

取組を実施していることについてどう思うか



取組を継続してほしいか



対象：保護者（n=4,932）

自由意見

●好奇心・探究心●

- 色々な物事に**興味を持つ**ようになり、自分で調べ聞いたり、学んだことを教えてくれるようになった。
- 色々な事に関して「なんでこうなるのか？」を**自分なりに考える**機会が増えた。
- ものごとを**多面的に見る**ようになりました。

●意欲●

- 園でも家でもよく手と頭を動かして**考える**ようになった。
- **集中力**が増した。アイデアや創作意欲が湧き、**自分から進んで挑戦**するようになった。
- 受け身で見るだけでなく、**自分でもやってみたいという挑戦心**が育っていると思う。
- 元々創作が好きだがより**意欲的**になった。
- 色々な事に**チャレンジしようとする姿勢**が見られるようになった
- 大人に答えを聞くだけでなく、自分なりに「こうなんじゃないかな」と**考えて意見する**ようになった気がします。

●協同性、コミュニケーション●

- **友達との交流機会**も増えて、**言葉や心の成長**が見られるようになりました。
- 自分の**考えや思うことを周りに伝える**ようになった。

●共感●

- **人を思いやる心**が育ち、自分とは違う意見があっても**認め合う**傾向がある。

●その他●

- **表情が良い**。家庭においても、経験した遊びを取り込んで遊んでいます。
- すくわくをととても楽しみにしていて、**園へ喜んで登園**する。
- **保育園に行くのを楽しみにする**ようになった。
- **親子での会話**の幅が増えた。



このプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。